

伊藤 正信

議員

無所属クラブ

行政評価と諸施策の
市長の自己評価は

問 (1) 市長の3期目を迎えるまでの行政運営について、自己評価を尋ねる。

(2) 今後、少子・高齢化が進む中、高齢者にとって本当に優しい社会保障について、市長の考えを尋ねる。

(3) 婚活支援について、27年度の具体的方針を尋ねる。

(4) 2027年リニア開通により首都圏から1時間ほどの経済圏になることが期待される中、JR白鳥駅の設置、弥富駅の総合駅化をJR東海に要望をしていただき、本市の基盤づくりを進める考えは。

第1次総合計画前期計画の評価を踏まえ、後期計画に取り組んでいく

どこの財政も厳しく、健康、介護に対する予防について皆様にお願いをしていくと同時に、一定額を負担していただくこともやむなしと

思っている。

社会保障と言われる分野について、これから皆様のご協力もいただいでやっていきたいと思います。

行政が婚活をするというところは多くのところでも取り入れてみえるわけであるが、それを一つのひな形にして、我々もこの取り組みを始めさせていただく。

婚活の窓口を社会福祉協議会とお願いする。

着実に出会いの場を設けて、いろんなイベントをこの秋に開催していきたい。

(2) 高齢化社会について、山積している課題がたくさんあるが、我々は一つ一つの制度設計の中でしっかりとこれを理解し、前へ進めていく。そして、高齢化社会に対して、市民に少しでも理解していただくように考えていきたい。

しかしながら、介護の問題も国保の問題にしても、

この大きな枠として地域づくりということがある。その中で、我々としては規制緩和や権限の移譲というところで、白鳥学区を一つの候補地として挙げながら、白鳥駅の新設についても、地方の戦略の一つの項目として検討していく課題であろうと思っている。

JR弥富駅の問題については、32年までにバリアフリー化して、自由通路の設置をお願いしていく。

単独では行っていないが、県の報告書では危険度は極めて高い

答 総務部長

(1) 市単独では行っていないが、愛知県が26年5月に発表した「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査報告書」において南海トラフ地震に対する

液状化危険度予測が検討されており、その資料として本市が保有しているボーリング調査結果を提供し、その結果として、本市ではどのモデルケースにおいても

液状化危険度は極めて高いという判定結果となり、今後の避難計画の策定についての課題ともなっている。

答 防災安全課長

(2) 消火栓の設置について、本市は、おおむね100mおきに設置している。

この基準は、消防水利は、おおむね100mという消防法の基準に基づき、そのような設置方法としている。

50m間隔での設置は、今後の検討課題としたい。

液状化に対する地質調査を実施しているか。

(1) 本市における液状化に対する地質調査は実施しているか。

液状化に対する地質調査を実施しているか

(2) 消火栓について、本市では防火対象物からおおよそ100mの距離で設置されているが、住宅密集地域ではこの間隔では足りないところもあるのではないかと。そういった地域については、設置間隔を50mぐらいくらいにできないか。

第1次総合計画前期計画の評価を踏まえ、後期計画に取り組んでいく